

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2021年7月1日 214号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



第9回パクー稚魚放流式
2021年5月21日
フェルテ・オリンポ市

青年が中心となり、希望を与えた放流式

岩澤代表の報告より…5月21日、晴天下の州都オリンポ市において、私たち南北米福地開発財団は、国立アスンシオン大学獣医学部水産学科と世界平和統一家庭連合（旧統一教会）の協力を得て、パクー稚魚3000匹をパラグアイ川に放流した。生態系を維持する目的で、パラグアイ川から採った親魚に産ませた稚魚である。今季レダでは合計12万匹をパラグアイ川へ放流することを予定している。

レダの養殖事業は2010年に始まった。アスンシオン大学水産学科のマグノ・バレット教授から教示を受け、2012年12月、アルトパラグアイ州では初めて人工孵化に成功した。そして近年の乱獲等によるパラグアイ川のパクーの激減に対処するため、2013年から稚魚の放流を開始し、以来8年間継続して放流してきた。

去る1月、パクー養殖の総責任者、滝川哲盤君から今年度はレダ以外の地で放流式典を行う事を提案された。これに佐野、中井両理事も同意し、州都のオリンポ市で放流を行う事を決定した。現在コロナ禍で、パラグアイ全国で多くの死亡者が出ている事を考慮し、大きな式典は控え、オリンポ市を中心に州レベルで行う事も決めた。

最大の課題は、どのようにレダから100km離れたオリンポ市まで稚魚を安全に運ぶかであった。放流式の前日、稚魚に負担をかけないよう注意しつつ、朝の8時から稚魚の水揚げを始め、2隻のボート「Good Go」に1個ずつ載せた1000リットルの水槽に積み替えた。

稚魚の平均サイズが約15cm、体重67gという事より、各水槽には1500匹収容可能とマグノ教授が判断。2隻で計3000匹を運ぶことを決めた。稚魚が極めて密な状態にあるので常時ポンプで水中に空気を送りながら、4時間走り、午後2時オリンポに着いた。

現地で大きな6000リットルの水槽を準備し、3000匹の稚魚をこれに移した。マグノ教授を中心に滝川君、川久保君、パブロ君ほか、従業員たちも非常に手際よく働いたことにより、一匹も死ぬことなく、稚魚は元気に新しい水槽の中を泳いでいた。その頃はオリンポの人々が大勢集まり、興味津々にパクーの稚魚を見ていた。

前もって稚魚の準備を進めるとともに、佐野氏とオリンポの家庭連合アリスティデス・ロンドン教会長は、州と市の要人たちを訪問。また式典の2日前からアスンシオン大学の教授と佐野氏が高校生および漁業組合関係者に放流の意義、環境保全の大切さなどを講義した。（次面に続く）

パクー稚魚放流式(1面より続く)

は我々の敷地であるにも拘らず、かなりのごみが投棄され、灌木などで覆われていた。これを式の前日、日本の女性奉仕隊員4人とアスンシオンから駆け付けた家庭連合のカタリーノ・エスピノラ夫妻らが精力的に片付けた。さらに川久保君、滝川君、レダの従業員たちの清掃作業により、放流式の会場が見違えるほどきれいになった。



君盤哲滝川放流稚魚の準備をする

式当日の朝は、マグノ教授自らが2隻のボートの配置を決め、バナール付け、パラグアイ川と放流棧橋を中心に式典全体が最もよく映えるよう工夫を凝らした。



川岸のゴミ撤去を完了して。5月20日

定したが、市会議長、州の検事長と判事、州警察署長、海軍責任者、高等学校の校長、教師、また多くの高校生が参加し、会場は直ぐ一杯になった。皆熱心に放流の意義について耳を傾けていた。

第1部が終わり、参加者らは歩いて5分ほどの棧橋に向かった。そこではマグノ教授、レダの青年、

スタッフらが大水槽から稚魚をすくい上げ、ビニール袋に入れ、酸素を注入して放流の準備をしていた。要人たちから放流を始めると、多くの青年、そして地域の人々も加わり、3000匹の稚魚をすべて放流することができた。参加者の多くは今まで魚を獲ることは熱心にしてきたが、人生で初めて多くの稚魚を放流し、大変喜んでる様子だった。



氏古比春澤岩の代表法人地現、5月21日

ちの主體的かつ積極的な参加と奉仕、活躍によって今回の放流式が実行されたという事である。

レダでのパクー養殖事業は青年の滝川君に完全に任されており、今回の稚魚の育成管理、水揚げ、放流などマグノ教授のアドバイスを受けながらも、彼がレダの従業員を動員し、すべて責任を

持つて行った。また放流式典の第1部は家庭連合のパラグアイ青年がしっかりと務め、会場全体をよく盛り上げ、まとめた。さらに式典全体を通して環境保全そしてパクー稚魚の放流に関心を持ったオリンポの多くの高校生らが積極的に参加していた。

この式典を通してパラグアイの多くの青年たちが目覚め、これから我々と一緒に活動することを通して多くを学んでいくならば、彼らは国に希望を与え、真の意味で国の発展の原動力になると確信する。こ

のように今回の放流式典は青年たちが中心となって実行し、皆に新しい希望を与える行事となった。

二つ目は、今回初めてレダではなく、オリンポ市で稚魚を放流したという事である。オリンポ市は



スタッフのレダと大学教授のアスンシオン

よりもまず文総裁夫妻が訪れ、釣りをして、祈られた聖地である。レダプロジェクトはここで始まった。その21年の歩みの中で、わが青年奉仕隊の活動によりオリンポ市にもニームの立派な街路樹が育ち、ごみ箱が置かれているが、今回パクーの稚魚3000匹が放流され、オリンポの市民5000人も今まで以上に我々に関心を持ち、文総裁夫妻を好意的に受け入れ、我々の今後の活動に期待している。



5月21日参加した若者たち

23日にはその全国紙で放流式典の内容を報道した。今回も準備段階から式典の最後まで様々な課題が発生したが、何よりも神の導きと守りがあり、さらに式典に携わったすべての方々の献身的な協力があった。すべてを滞りなく終えられた事を心から感謝する。

南北米福地開発財団(現地法人)代表 岩澤春比古

持続可能な福地建設をめざして(1)

新たな旗印を掲げて

和田賢一

南北米福地開発協会がパラグアイ・レダに入植する大目標をめざして約20年が経過しました。現地に赴き活動を推進する有志、それを支援する同志の方々、さまざまなプロジェクトに協力してくださった若者たち。福地建設を志した全会員の総力によって、レダ開拓は基礎固めができたのではないのでしょうか。

当協会は、その基礎の上に立って、さらに盤石な骨格造りに乗り出さなくてはならない時を迎えました。そのためにはレダで展開している各プロジェクトの底上げを図るとともに、日本はじめ海外に在住する会員各位の諸活動も質と量を高めていくことが望まれています。

そのためには、再度、全会員が心を一つに束ねるために、提唱者の文鮮明、韓鶴子ご夫妻のお言葉に



パラグアイ川西岸に位置するレダ基地。写真左側が北方(上流)。

立ち返ることは言うまでもありませんし、さらに具体的にめざす福地の概要を模索提案していくことが大事であると思われるます。

- ① 貧困をなくそう
- ② 飢餓をゼロに！
- ③ 全ての人に健康と福祉を！
- ④ 質の高い教育をみんなに
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に
- ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ⑧ 働きがいも 経済成長も
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ 住み続けられるまちづくり
- ⑫ つくる責任 使う責任
- ⑬ 気象変動に具体的な対策を
- ⑭ 海の豊かさを守ろう (川・湿原の豊かさ)
- ⑮ 陸の豊かさを守ろう
- ⑯ 平和と公正を全てのの人に
- ⑰ パートナリシップで目標を達成しよう



国際連合本部ビル(Wikipediaより引用)

ち出しました。これに応じて、各政府の賛意の上、各自自治体や各企業も賛同して、その指針にいかにつくることができると、模索・検討を重ね、早くもその目標に向かって努力がなされています。

「持続可能な開発目標」は17項目あります。

この17の項目は私たち、地球星に住む人類をはじめとし、動植物などを含めた大自然が抱える問題でもあります。一つの項目だけでも、問題の根は深く、克服しなければならぬ課題が次から次へと現れてきました。

政府はいまでもなく、地方自治体、各機関、企業や個人がその問題に果敢に挑戦しています。そして、進んできた点もあり、まだ未来が見通せないものもあれば、手付かずのものも。それでも改めて今、「持続可能な開発目標」が示される点に注目せざるを得ません。それは、恒久的な平和の実現、人類の幸福の享受、豊かな自然の保全は待ったなしだということです。

私たちがレダで推し進める愛に満ちた家庭、公平で豊かな社会、安定した国のモデル造りも、そうした時を迎えているのではないのでしょうか。改めて「持続可能な開発目標」の一つの素材として、レダ開拓の未来について考えていきたいと思っています。(つづく)





稚魚12,000匹を別の池に移動。5月29日



大きめの稚魚をすくう。6月5日



パクーの稚魚2,500匹を移動する作業。6月5日

レダ基地スナップ



レティロにて子豚を持つ源田さん。



アルマジロを持つ荒巻さん。



7月の奉仕活動用のベンチ。絵と文字は女性たちで。6月1日



本田さんが釣ったパクー。6月10日



パクーの調理法を学ぶ本田さん(左)とヌワビシさん。



マンディオカ苗を植える大元氏。6月9日

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



<https://asd-nsa.com/nk/>

入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

レダ・プロジェクト紹介用 パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>